

1. 評価結果概要表

作成日平成20年 3月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	3650180015
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホーム たんぽぽ
所在地	徳島県徳島市西新浜町2丁目3-33 (電話) 0886-663-8811

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 25日

【情報提供票より】(平成20年2月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 6月 5日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算 ユニット① 6.35人, ユニット② 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	6 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,500 円	その他の経費(月額)	光熱水費6,000円, その他実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ロイヤル病院 ・四国セント歯科
---------	------------------

徳島県 グループホームたんぽぽ 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周辺は交通の便が良いために家族の面会も多い。大型スーパーが近いので買い物にも簡単に行くことができる。ホームが2階となっているが、畑には野菜や花が植えられ、オリーブの木も植えられている。暖かい日には日向ぼっこもでき、見晴らしもよい景観である。ホーム内は2ユニットがL字型になっているため自由に行き来ができる。建物がホーム単独でないために夜間でも、職員間での相談ができ、入院が必要となった場合でも移動することなく家族も今までと同様に面会ができるという長所がある。必要時には、早急な対応ができるために、利用者および家族は毎日が安心した生活を送ることができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点の①「たんぽぽ便りの活用方法」について、市町村等へ配布し事業所のPRにつなげられている。②「夜間の刃物の管理方法」について、戸棚にチェーンを巻き鍵をかけての管理ができています。③「計画的な研修体系づくりと実施」について、研修計画が立てられ研修報告書の記録がある。また、職員の知識・技術のレベルアップが図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価の意義を理解し、改善項目を職員間で話し合い取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、利用者及びその家族、地域住民、民生委員、老人会会長、地域包括支援センターの職員、市の職員、主治医が参加している。会議内容は、事業所からの活動報告に加え、災害時の協力体制作りや利用者の手工品を美術展に出展する等といった協議が行われている。しかし、定期的に開催されているものの、平成19年度においては3ヶ月に1回の開催となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム内に意見箱を設置している。また、家族の面会時や家族会、運営推進会議の際に意見を聞きだしている。意見等へは、些細な内容でも真摯に受け止め対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>階下にあるデイサービスに通う地域の利用者との行事や外食、買い物等を実施している。また、近隣住民との清掃活動等や小学校、老人会との交流なども行っている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は玄関や職員詰所の見やすい場所に掲示されている。また、理念作成時には職員間での話し合いが行われ、独自の物が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿ったサービスを提供するために管理者と職員が会議等で理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	階下にあるデイサービスに通う地域の利用者との行事や外食、買い物等を実施している。また、近隣住民との清掃活動等や小学校、老人会との交流なども行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価に対し実施することの意義を理解し、改善課題については、ミーティングを開催して即対応され改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者及びその家族、地域住民、民生委員、老人会会長、地域包括支援センターの職員、市の職員、主治医が参加している。会議内容は、事業所からの活動報告に加え、災害時の協力体制作りや利用者の手工品を美術展に出展する等といった協議が行われている。しかし、定期的に開催されているものの、平成19年度においては3ヶ月に1回の開催となっている。	○	運営推進会議は、2ヶ月に1回、開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	お互いに行き来したり、なじみの関係作りができており、連携体制が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回、「たんぽぽ便り」で生活状況等を報告している。また、体調の変化時などには、随時、連絡を取っている。金銭管理は、母体法人事務所で行っており、利用料の支払い時に窓口又は郵送で報告し、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情箱を設置している。また、家族の面会時や年2回の家族会、運営推進会議の際に意見を聞きだしている。意見等へは、些細な内容でも真摯に受け止め対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成19年度は、1名の退職者があったが、職員の異動はなく、利用者へのダメージを防ぐ配慮ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修への参加が年間計画としてたてられており、情報共有のため報告書等の記録がファイルにまとめられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3事業所が持ち回りで交流会を開催している。その中で情報交換や相互訪問等でサービスの向上に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人や家族の方と見学に来てもらい、ホームについての正しい知識や情報を提供し、安心して納得のサービスが利用できるような体制ができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からお正月の飾り付けやおせち料理、季節ごとの行事やしきたり等を教えてもらうことで、共に支えあう関係作りができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が困難な利用者は、家族からの意向を取り入れるなど、一人ひとりの思いや希望に沿うような取り組みができています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族会、運営推進会議等を活用し、家族や利用者、必要な関係者等の意見を取り入れた話し合いのもとに介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた計画の見直しとモニタリングができています。また、変化が生じた場合の見直しもされています。そのときには利用者本人や家族、医師等の関係者間での話し合いがされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は満床だが、空床ができれば短期入所を受け入れる仕組みがある。また、協力病院との24時間医療連携体制があり、週1回の医師の診察がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関への受診支援ができており、随時対応されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化や終末期に向けた事業所の基本的な方針を説明している。また、職員間でも個々にあった方針の共有を図る支援をし、利用者の状態に合わせた支援ができるよう計画している。現在入居されている方の中に該当者はいない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を職員間で厳守することを十分に周知している。「たんぼぼ便り」に写真を入れることや運営推進会議での情報利用に関しても家族の方の了解をいただいている。また、運営推進会議終了後には、個人情報該当箇所を全て削除している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「コンタクトライフ」の実践により、その人らしい暮らしが継続できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と、職員、併設施設の管理栄養士が参加し、1週間に1度献立ミーティングを開催し、好みや旬の食材を取り入れた季節感を味わえるような配慮をしている。職員とともに食事をし、利用者は台拭きや盛り付け、後片付け等を行い、共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりゆっくりとしたペースでの入浴ができています。清潔な明るい浴室で清掃が行き届いている。しかし、時間帯は10時から14時の間に設定されている。	○	自由な時間に入浴できるよう工夫するなど、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や、花の手入れなど利用者の状態に合わせた役割を持てるような支援をしている。利用者が作成した絵画や職員と共同で作成した作品が廊下などに飾られており、利用者の特技を活かした支援もできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じた外出計画がある。また、買い物や外出は利用者の希望時いつでも出かけられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が居室や玄関に鍵をかける弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者が外出しそうな様子を察知すればさりげなく声をかけたり、一緒に外出をする等の配慮がされている。利用者の安全を重視しながら、自由な暮らしができるような支援ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議のメンバーと地域の人々による災害時の支援体制が作られている。事業所は、ユニットごとに火災報知機、スプリンクラー、消火栓、非常通報装置が設置されており、連絡網もよく分かる位置に掲示されている。また、災害時避難訓練も実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が参加する献立ミーティングの中で、栄養バランスやカロリーについてのアドバイスを受けている。利用者の嚥下状態や好み等を考慮した内容の食事となっている。また、毎回の食事量や水分摂取量を確認し、記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひな飾りや壁画の展示、行事の写真等により季節感を味わえる工夫がされている。廊下の陽だまりができるところには、移動式の畳があり、ゆったりとくつろげる雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や家具等、利用者の思い出のある持ち物が持ち込まれている。居室は、本人や家族と話し合い居心地良く過ごせる配慮がなされている。		